

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 鳴水 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国正答率を上回っている。 ・話題の中心を捉える問題や物語の全体像を掴み、登場人物の相互関係を捉える設問については、非常に高い正答率を示していた。一方で、文章に対する自分の考えや感じたことを示す設問では、課題が見受けられた。
	よくできた問題	話し言葉と書き言葉との違いを理解する・人物像や物語の全体像を具体的に想像する・漢字
	努力が必要な問題	感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける・構成や書き表し方などに着目して文章を整える
算数	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国正答率を上回っている。 ・中でも、空位のある整数の乗法の計算や場面解釈から立式し答えを導く設問には、非常に高い正答率を示していた。 ・概ね問題文全体から問われていることを掴むことはできている。一方で、数量と割合では、示された比較を読み解くことに課題が見受けられた。
	よくできた問題	空位のある整数の乗法の計算・場面解釈から立式と計算・表の全体と部分の関係性・図形理解
	努力が必要な問題	目的に合った数の処理の仕方を考察できる・数量と割合の関係・データ整理とデータの分析
理科	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国正答率を上回っている。 ・中でも、観察の技能の高さと情報収集能力には高い結果を示していた。一方で、収集した結果から、自分の言葉でまとめることや考察として書き出すことに努力が必要である。
	よくできた問題	問題解決のための観察の視点・問題解決の道筋の構想・観察の技能と問題解決に必要な情報の収集
	努力が必要な問題	結果から考察(自分の考え)をもつこと・導き出される結論を自分の言葉でまとめること

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>【生活習慣に関する項目】 「朝食を食べる」「決まった時間に寝起きする」「携帯電話やPCの使い方」など、生活習慣に関する質問項目に対して、肯定的な回答が多かった。また、家庭での学習習慣については、自分から計画を立てて、進んで学習している様子が窺える。また、課題に取り組む際に、分からない問題があると、友達や家族に尋ねて、確かめる習慣が付いていることが分かった。</p> <p>【学習習慣に関する項目】 前述したように、宿題や自主学習に自主的に取り組んでいる様子が窺える。学校の授業以外に家庭で取り組んでいる学習時間の平均値は、「1時間以上2時間未満」であった。この時に、分からない問題があると、友達や家族に尋ねるといった結果が示されている。読書についても肯定的な回答を示し、1日30分程度の読書時間を確保しているということが分かった。</p> <p>【学校生活に関する項目】 学習面・生活面ともに、友達との関わりを大切にしながら、過ごしている様子が窺える。学校に来ることが楽しいと回答する割合は高く、中でも、友達との関わりが理由の上位となっている。これまで学習や学校行事等を通して、友達との関わりを大切にしながら、自己有用感を高める指導を行ってきた成果であると考える。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・重点的な課題としては、「自分の考え」「感想や想い」を書くことや伝えることが挙げられる。そのため、授業の中で、一人一人が思考する時間をしっかりと確保し、小集団にて発表したり、伝えたりする機会をこれまで同様に確保し、「考えを伝え合う」ことの経験を増やしていく。次第に小集団での発表機会から、学級全体で伝え合い、他者の考え取り入れながら、協働的に学ぶ機会を設けていきたい。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭での学習習慣については、現在行っている自主学習の推進を継続していきたい。「教えてもらう」のではなく、自らの意欲や意思によって学びを進めていくことに楽しさを感じ取ってもらいたい。各学級の優れた自主学習への取組を紹介したり、表彰したりする機会についても継続していく。この取組の中では、内容の充実ももちろん考慮するが、自主学習の視点のおもしろさにも目を向けていきたい。自ら進んで課題を見付け、解決しようとする姿を追求していきたいと考えている。
